

被災地支援施設建設プロジェクト(エコハウス)について

大槌町, 山田町に建設する被災地支援施設 (エコハウス) が間もなく完成の運びとなりましたので, その概要をお知らせいたします。

記

1 建設の趣旨

盛岡市が行う沿岸被災地復興支援のシンボルとして, 大槌町及び山田町内に環境配慮型の仮設ミニ集会施設兼ボランティア活動拠点施設を建設する。

事業推進に当たっては, 「被災者の生活支援」, 「被災地の復興支援」, 「エコロジー」, 「企業, 団体等からの協力・支援」をコンセプトとする。

2 事業実施主体

「被災地支援施設建設プロジェクトもりおか実行委員会」

構成団体：盛岡市, 盛岡市町内会連合会, 岩手大学, 東海大学, 岩手県森林組合連合会

3 建設地

(1) 山田町

船越家族旅行村オートキャンプ場内 (No. 7 区画)

(下閉伊郡山田町船越 9-266-2)

災害ボランティア及び地域の交流集会施設として建設。

(2) 大槌町

小鎚第 4 仮設団地南側区画駐車場内

(上閉伊郡大槌町小鎚第 17 地割字曾根 55 番)

仮設住宅団地内の集会場として建設。

4 建物の概要

・建物本体 木造平屋建て 延床面積 29.81 m² (9 坪)

使用木材は, 市産材を基本とする。市産材は, 岩手県森林組合連合会所有の木材を使用。(岩手大学から寄贈された木材も含む)

岩手大学と宮古市の企業が共同開発した震災廃木材を用いた「復興ボード」のほか, エコライフイベントの協賛企業から提供いただいた「遮熱材(リフレティクス)」, 「リサイクルガラス造粒砂」を使用。

・付帯設備

ソーラー発電・蓄電システム、ペレットストーブ、LED ライト等環境に配慮した設備を設置し、エネルギー自立型の建築物とする。

○建築物の特徴

- ① 建物の増改築や解体、あるいは違った間取りへの建て替えが、容易にできるように考えられた工法で、建てて使ってみて、変化させることが容易な工法。
- ② 柱の連結パネルで構造壁を構成しており、しかもその壁は構造壁でもあり、断熱材でもあり、内壁や外壁の仕上げ材でもある。柱材の厚み分の木材をそのまま断熱材や仕上げ材としても活用するなど、新建材をなるべく使わず、環境負荷が少なく、林業の活性化に貢献するために考えられた工法。
- ③ 構造は各部材ごとに分解可能なように構成されており、各構造部材は原則ボルト固定し、それを緩めることで、容易に解体可能。解体時には、柱材等を他の建築物に転用可能で、廃棄物が出にくい構造になっている。

5 工事の進捗状況

11月4日から盛岡市内で建物の壁、屋根等のパネル製作を行い、11月18日から山田町の建設現場での作業に取りかかっている。山田町の建設が終了後、大槌町の現場に入ることであり、それぞれの工事完成予定年月日は次のとおりである。

- (1) 山田町 平成23年11月30日(水)
- (2) 大槌町 平成23年12月10日(土)

6 完成式典について

(1) 山田町

- ① 日時 平成23年12月6日(火) 午前11時から12時まで
- ② 場所 船越家族旅行村オートキャンプ場内

(2) 大槌町

- ① 日時 平成23年12月11日(日) 午前11時から12時まで
- ② 場所 小鎚第4仮設団地南側区画駐車場内

担当：環境部環境企画課 小笠原、藤澤 電話 651-4111 内線 8411
--